

K224-20

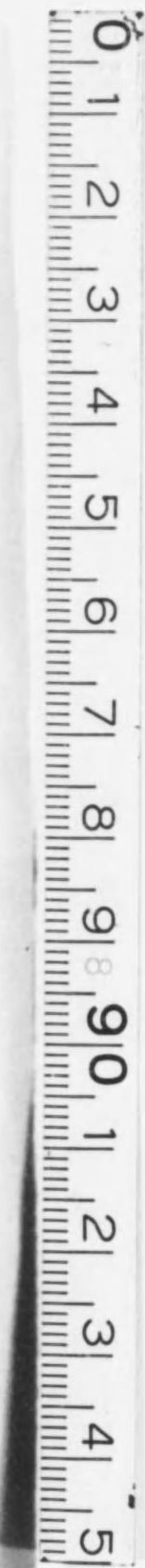
特241

155

罐詰及製罐業から工作機械製造業に

東洋鋼板株式会社
専務取締役 高 崎 達 之 助

代
贈
寫



始



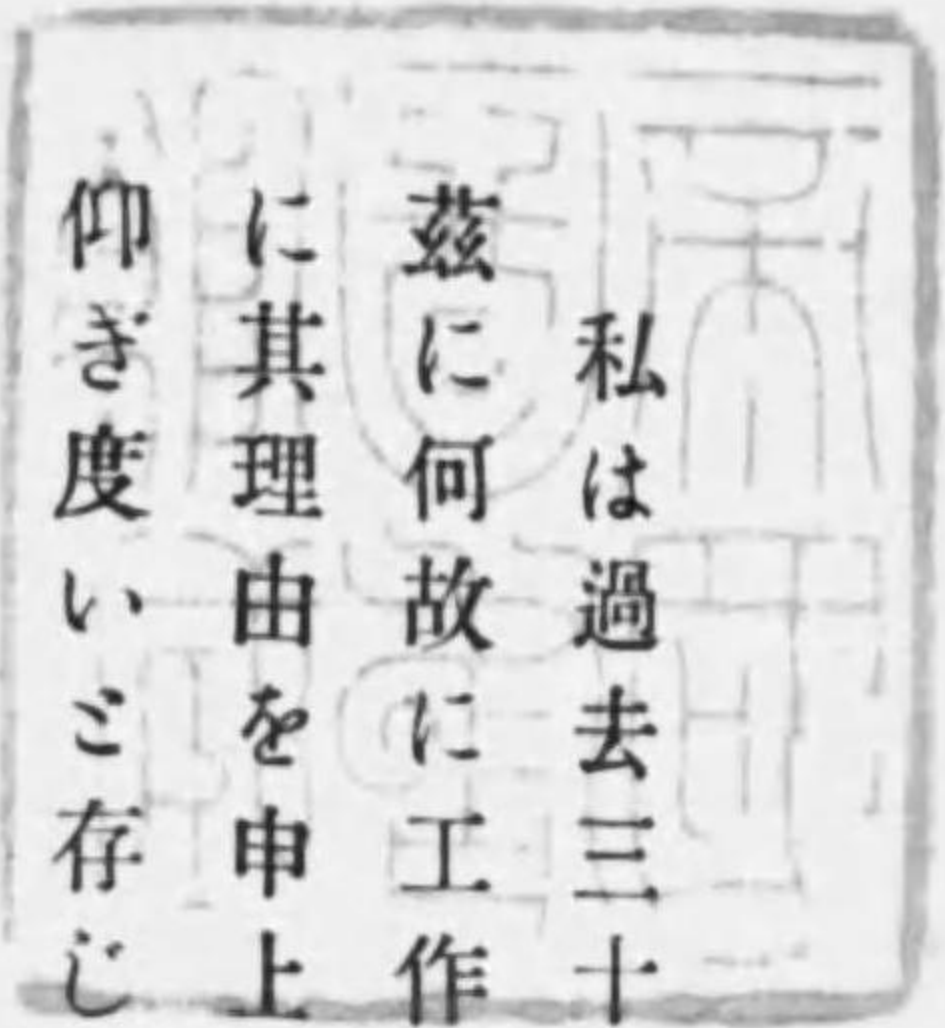
特241
155



罐詰及製罐業から工作機械製造業に

東洋鋼板株式會社

専務取締役 高 碕 達 之 助



私は過去三十年來罐詰及び製罐の事業に終始して参りましたが
茲に何故に工作機械製造業を始める事になりましたかに付き簡單
に其理由を申上げて日頃御親交を得て居ります皆様方の御指導を
仰ぎ度いと存じます。

二十五年前の罐詰業と現在の罐詰業

私共が二十五年前に東洋製罐株式會社を創立いたしました當時



の日本の罐詰業の状態は

(A) 罐詰業者は如何にして輸入品を駆逐するかと云ふ事を目標として居つた

(B) 罐詰業者は内地の市場で賣れる品は何でも手當り次第に製造し生産過剰になつた時には同業者が鎬を削つて競争し投げ賣が始まる状態で事業の基礎が確立しない爲め製品の品質向上の競争をなす暇なく寧ろ價格切下の競争に没頭して居つた

(C) 各罐詰業者の製品は罐型に於て内容量に於て一定の標準なく、丸型罐のみにも直徑及び高さの異なるもの二百七十余种あり到底世界的商品たり得なかつた

のであります。

二十五年を經過した今日の我國罐詰業の狀態は

(A) 輸入品を完全に驅逐し世界の市場に進出し今日では日本重要輸出品の第四位を占める様になつた

(B) 罐詰業者の製造の分野は其の地理的並びに人的要素によつて自ら鮭、蟹、鱈、鳳梨、蜜柑等と分立専門化し同業者は組合又は共販組織によつて其生産と販賣を統制し生産原價の節約と製品品質の向上を圖つて居る

(C) 其の罐型及び内容量は日本罐詰協會によつて商工、農林兩省の援助の下に單一化し標準化し而かも其の基礎を世界的標準である米國の夫に依つた結果日本罐詰が輸出さるゝに至つた

(D) 日露戰役當時は軍用罐詰の補給に就いては官民共に苦しん

四
だが今次の支那事變に於ては假りに百萬二百萬の大軍を動かされても輸出向罐詰の生産力を軍食用に振向くる事により少しの心配も要しないのであります

率直に申し上げますと現在の日本の機械工業は二十五年前の我國罐詰業と同じ様な立場にあるのではないかと考へられるのであります。

精密機械製作技術は米國に比し劣らざる自信を得たり

最初私共は罐詰及び製罐用の機械を全部米國から輸入して居り

ましたが之等の自給方針を樹て大正十三年二月に日本に於て製罐及び罐詰機械製作所として最も古い歴史を持つて居つた株式會社林鐵工場を買収し其經營をなす傍ら自ら東洋製罐廣島工場を機械製作所として其の精度に於て其の機能に於て米國機械製作所に劣らない優秀製作機を設備し一般の注文に應ぜず専ら自家用製罐機及び東洋製罐の空罐需用家に供給する罐詰用機械の製作に没頭して來たのであります。

色々研究して見ますと今日迄に數知れない苦心はありましたが現在に於ては米國に比し其の材料に就いては相當の**ハンディキヤ**ツプを附けられては居りますが其の製作技術に就いては敢て遜色がないのみならず其の工賃の如きは彼に比し約五分の一以下である事が事實に於て判明したのであります。即ち製作技術は米國に

比し遜色がないと云ふ自信を得たのであります。

六

米國の工作機械輸出は年々増加せり

續つて米國に於ける機械類の輸出金額を見ますと一九三六年には三億三千五百萬弗で米國商品總輸出額の八分の一を占めて居ります。其の中工作機械は四千六百萬弗を占め而かも工作機械の輸出は一九三三年を最低として年々増加の傾向を示して居ります。その輸出は左の様な統計になつて居ります。

米國機械類輸出年額

年 度	工 作 機 械	其 他 機 械 合 計
一九二七年	二五、三八〇 <small>千弗</small>	四三四、〇三三 <small>千弗</small>

一九二八年	三四、一二四	四九二、六九七
一九二九年	四〇、八〇四	六〇六、七八九
一九三〇年	四二、〇〇五	五一五、五四〇
一九三一年	四〇、〇三六	三一六、八三一
一九三二年	一三、八六八	一三一、六六三
一九三三年	九、三六九	一三二、五二八
一九三四年	二一、七八〇	二一八、三五六
一九三五年	二九、七五二	二六五、三五五
一九三六年	四六、一一九	三三四、八六一

米國機械製作工賃は我國の三倍乃至四倍なり

右機械の製作に支拂はれて居ります職工の賃銀は何程であるか

と申しますと左の通りであります。

機械工一時間當り平均賃銀

年 度	熟練工	不熟練工
一九三三年	・五八三 ^弗	・四三八 ^弗
一九三四年	・六三三	・四九七
一九三五年	・六五七	・四九六
一九三六年	・六六七	・五一二

之れによつて見ますと熟練工一人當り一日八時間労働として五
弗三十三仙日貨として十八圓強、不熟練工一人當り四弗〇九仙日
貨十四圓強であります。

日本製工作機械は米國製品と世界の市場に於て競争し打克つ見込あり

大体に於て米國の工賃は日本に於て青年養成工を使用しました場合の約八、九倍に相當して居ります。勿論米國機械工業の勞働者一人當りの能率は機械化による生産方法の高度化によつて近年益々向上し一九三六年は一九二九年に比し約二倍になつて居ります故日本の勞働能率の少くとも二倍乃至三倍の能率があるものごしても其の工賃は日本の三倍乃至四倍と認めてよからうご考へられます。

機械の専門家の意見によりますご「日本の工賃が米國に比し八分の一乃至九分の一である事は事實である。材料は米國より五割

高と見て差支へなからう。しかし日本の職工一人當りの勞働能率は到底米國の比ではない。其上に日本の市場は狭少であるから米國の如く自動式流れ式工場經營に依り大量生産をすれば直ぐに生産過剰となる。従つて日本の機械工業は多角的に何種類の機械でも作るご云ふ事になる故到底生産原價に於ては米國と太刀打出來ない」と云ふのであります。

此意見は恰も二十五年前に日本の罐詰業者が考へて居つた意見其儘であります。何故にもつご眼界を廣くして世界の市場を相手に考へないのかを怪しむのであります。

現在に於ける製作機械工場の擴充は國防充實と引續く對支事變の刺激を受け政府當局は勿論民間工場も大童になつて奔走して居る有様で恰も日露戰役當時軍食罐詰補給の途がつかない爲日本各地に罐詰工場を建設し之れに供用する熟練工を養成しても尙不足して遂に日本國民の味はつた事のない様な**コーンビーフ**や**ローズビーフ**の罐詰を大量に輸入して居つたのご寸分違はぬ状態であります。

日本の製作機械工場は平時輸出品を製造し有事の際は軍用に奉仕すべし

今日の我國罐詰業は平時に於ては年額五百參拾壹萬圓（金額八千貳百九拾壹萬餘圓）の輸出工業となつて居ります故に今次の事變の如き假りに百萬の大軍を動かすごしましても輸出品を軍需品に變更する事によつて軍當局は少しの御心配も要しないのであり

ます。

平時に於ては輸出工業として米國機械業者と争ひ世界の市場に日本工作機械の進出をなし一朝有事の時には國防方面の奉仕をなす様に此工業を導く事が眞に國を憂ふる者の勤めではないでせうか。

私は獨立した機械工業經營者としては全く素人ではありますがこ
う云ふ意味に於て私の營まんとする工場は最初は旋盤のみを米國
式に自動式に製作して輸出を目的にせんとするものであります
現時の狀勢に於ては軍部の要求にのみ應じ軍部の御用がなくなつ
た時に當初の目的に向つて邁進せんとするものであります。斷じ
て先輩機械製作會社の事業の御邪魔をする考へは毛頭ありません。
幸に先輩諸彦の御指導と御教示を得られますれば幸甚とする處
であります。

376
219

昭和十二年九月十四日印刷
昭和十二年九月二十日發行

【非賣品】

著作人 東洋鋼鈹株式會社
取持役 高碕達之助

印刷人 中田印刷所

發行所 東洋鋼鈹株式會社

大阪市天王寺區南日東町三三番地

K22H-20

終